

保存版

調乳用温水器F11/F12 日常点検・定期点検マニュアル



はじめに

本書は『調乳用温水器F11/F12』を快適にご利用いただくために必要な「日常点検」「定期点検」の内容を記載したマニュアルです。

本書の内容に従い毎日の「日常点検」、2年に1回の「定期点検」を正しく必ず実施してください。特に設置後、長期間経過した製品は誤使用等による破損、樹脂部の劣化、ねじのゆるみ等が発生する可能性がありますので、必ず「定期点検」を実施してください。

【注意】

製品の耐用年数について

本製品の耐用年数は正常に使用した場合で7年ですので、設置後7年を経過した製品につきましても、製品のお取り替えを、お願い致します。

本冊子の商品「調乳用温水器F11/F12」の形状です。施設での照会にご参照下さい。

<調乳用温水器F11/F12>

対象商品



※浄水器・温水器付シンクNAは、販売終了済です。

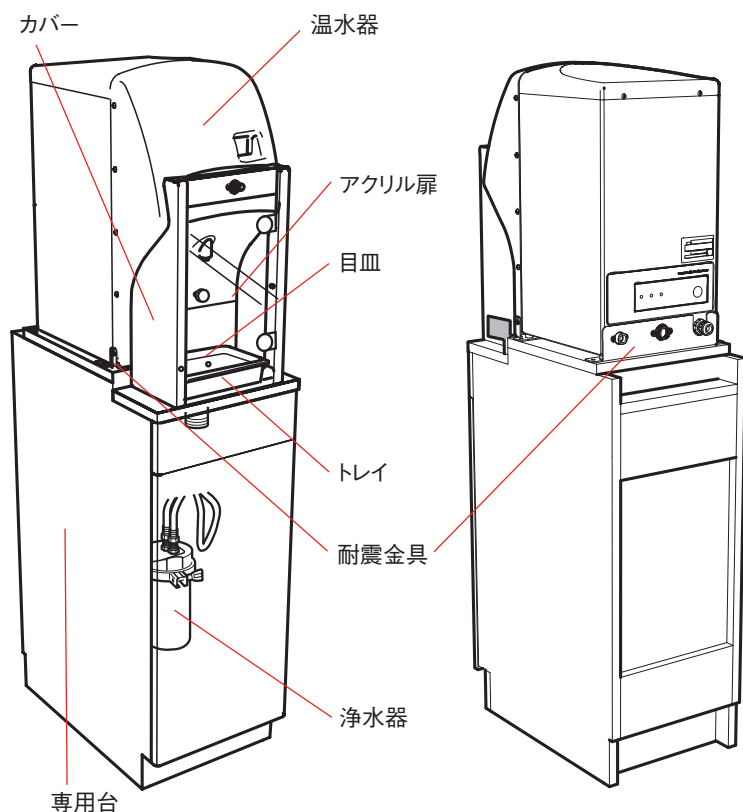


F11(浄水器無し)
F12(浄水器有り)

《《目次》》

1. 各部の名称 P2
 2. 必要工具 P2
 3. 日常点検 P3~4
 4. 定期点検内容 P5
 5. 定期点検手順 P6~14
 6. 浄水器フィルターカートリッジ交換手順書 P15~16
 7. 調乳用温水器F1シリーズメンテナンスチェックシート ... P17
 8. その他 P18

1 各部の名称



調乳専用 浄水給湯器
 Combi
 下記表示は貯湯温度です。
 「L.O」表示中は70℃未満で調乳に適さない温度ですので、温度が上がるまで調乳をお控えください。
 注意

温度表示ステッカー
 119146280 0803 (1)
給湯ボタン
 ●扉を開けないと操作できません
熱湯！ やけど注意
使いかた
 ① の中心に哺乳瓶を置き、扉を閉める
 ② 給湯ボタンを押し、お湯を注ぐ
 ③ タオルなどあて布を使用して哺乳瓶を取り出す

使用方法ステッカーC
警告
 ● **熱湯！ やけどに注意**
 熱湯が出ます。哺乳瓶を取り出す際は、タオルなどあて布を使用してください。
 ● **引き倒し等注意**
 扉や本体に無理な力を加えないでください。本体が転倒しケガや破損の原因になります。
注意
 ● トレーに多量の水やミルクなどを流さないでください。あふれるおそれがあります。
 ● 必ずトレーを設置してご使用ください。水もれの原因になります。
 ● 使い終わったら扉を必ず閉めてください。
 ● 哺乳瓶の目盛を見ながら給湯して下さい。
 119146140 0802 (2)

注意・警告ステッカー

2 必要工具

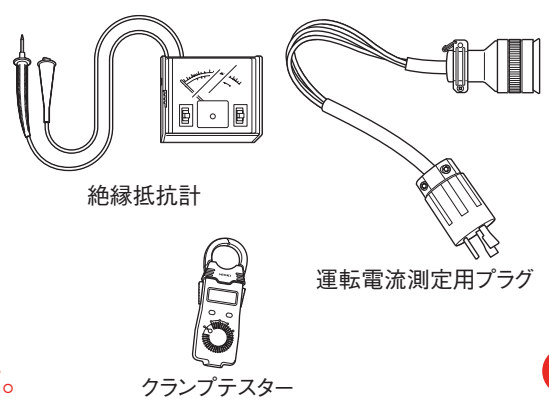
【日常点検】 日常点検においては、工具は使用しません。

【定期点検】

- ・ プラスドライバー
- ・ マイナスドライバー
- ・ トルクドライバー (1.3N・m)
- ・ モンキーレンチ
- ・ ウォーターポンププライヤー
- ・ ナイロンタワシ
- ・ ラジオペンチ
- ・ 運転電流測定用プラグ
- ・ 絶縁抵抗計
- ・ クランプテスター

【注意】 ねじの締め付けは、必ず手動で行ってください。電動ドライバー等を使用すると、破損する場合があります。

主な測定専用器具



3 日常点検

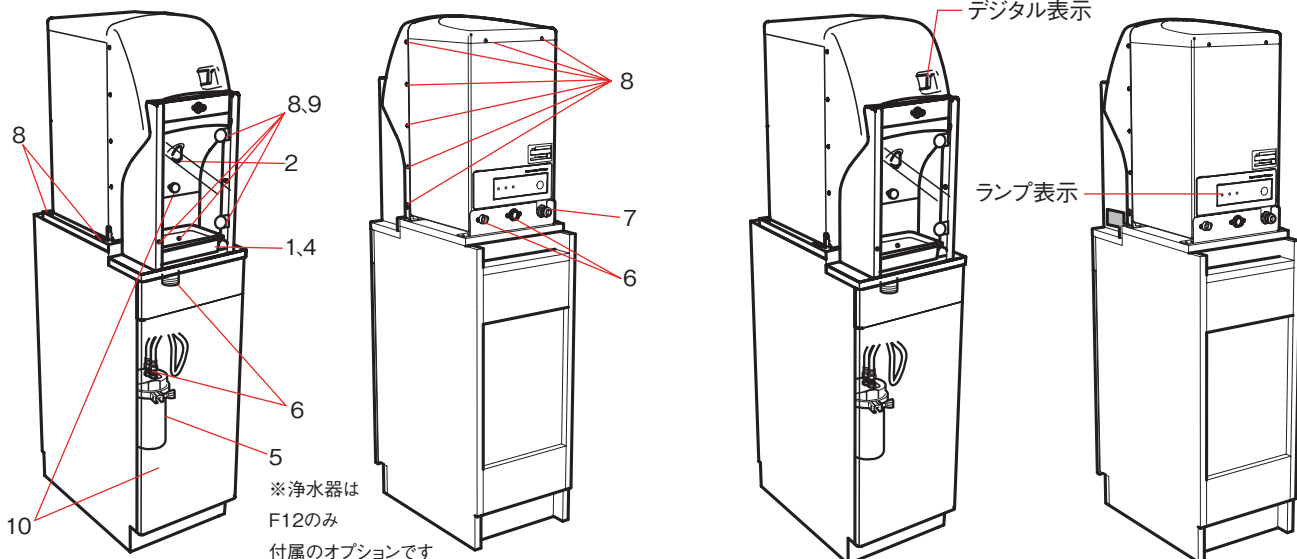
●日常点検は、毎日、目視および手感にて行う点検です。

日常のお手入れ

●日常点検は、1日1回を目安に行う点検です。

●下記項目で不具合を発見した場合は直ちに使用中止・修理を行ってください。

NO	点検項目	点検方法	判断基準	対応方法	備考メモ
1	排水トレイの設置確認	目視	トレイ、水切り板が正しい位置に設置されていること	排水トレイの正しい設置	排水トレイがないと漏水します。
2	給湯口の清掃	目視、清潔な布による拭き掃除	汚れ、水の付着がなく、清潔を保つこと	清潔な乾いた布で拭く	拭き取らずにおくとスケール(水アカ)が溜まり、水質悪化などの原因になります。
3	捨て水	毎朝使う前に捨て水	—	200cc程度の湯を捨て水する	
4	外観 排水トレイの清掃	目視	汚れ、水の付着がなく、清潔を保つこと	排水トレイは外して水洗い。外観部分は中性洗剤で汚れを拭きとった後、水拭き	
5	内部の浄水器表面の清掃	目視	水滴が付いていないこと	拭き清掃	室内が暖かく、水が冷たい場合特に注意。そのまましておきますと、カビ発生の原因となります。
6	漏水全般についての点検	目視、手感	本体および各配管接続部に漏水のないこと	接続しなおし、部品交換	
7	コード及び接続部の点検	目視	コードが熱を持っていたり損傷していないこと、またコンセント接続部の締付けにゆるみのないこと	部品交換	締付けがゆるいと焼損の原因となります。
8	ねじ類の潰れ、ねじの変形など	目視、手感	十字穴等の潰れ、ねじの変形、錆の発生がないこと	部品交換	
9	扉類、カバー類、丁番各ねじのゆるみやぐらつきがないこと	目視、手感	手で動かしてみてもぐらつき等の有無を確認	ねじの締めなおし、または部品交換	
10	扉類の開閉がスムーズで、アクリル扉はロックが確実であること	目視、手感	開閉具合、締め具合の確認	部品交換	
11	本体(特に上部)にぐらつきがないこと	目視、手感	本体上部を揺らすようにして確認	固定金具の追加など	
12	ステッカー類のはがれなど	目視	はがれ、汚れなど	部品交換	



故障と思われる前に

故障かな?と思っても、実際には製品の故障ではないことがありますので、修理を依頼される前に次の表を参考にしてチェックしてください。

■デジタル表示・ランプ表示一覧

温水器は各種の故障診断機能を備えています。故障や問題が発生したときは前面のデジタル表示と背面のランプ表示でエラーを表示します。エラーが表示されたときはエラー表示を確認後、電源スイッチを切ってください。

表示の状況				内 容	点検事項・原因・処理の方法
デジタル表示(前面)	ランプ表示(背面)				
	橙	赤	緑		
72~81	○	○	○	温度表示	通常表示です。
PP	○	—	○	初期給水(安全水位までの給水)	安全水位まで給水されれば通常表示になります。
Lo	◎	—	—	湯温が72℃以下	72℃以上に沸き上がれば通常表示になります。
E0	○	◎	—	過昇温検出 (設定温度より温度が高くなった)	ヒーター用リレーの異常
E1	◎	—	◎	給水異常	下部水位センサーにスケールが付着していませんか? →スケールをナイロンたわしなどで除去すれば直ります。
E2	○	—	◎	温度センサー異常	センサー交換か接続コネクタ交換が必要です。 →サービスセンターへご相談ください。
E3	○	—	—	沸かし上げ不可	ヒーター異常→サービスセンターへご相談ください。
E4+温度	○	◎	◎	オーバーフロー	上部センサーにスケールが付着していませんか? →「定期点検」へ ・自動給水弁の故障→サービスセンターへご相談ください。
E5	◎	◎	◎	温度測定エラー	マイコンの温度読み込み異常 →一度電源を切り、再度電源を入れると直ります。
E6	◎	◎	—	給水異常(断水)	湯沸器に水が供給されていません→運転停止後、給水されたのを確認した後、運転を再開させてください。

◎ 点滅 ○ 点灯 — 消灯

その他の不具合

ご注意) 貯湯式のため、運転開始から沸かし上げには時間がかかります。また、出湯能力以上のお湯は一度に供給できません。

状 況	点 検 事 項	処 理 方 法
運転スイッチを押してもランプ表示(裏面)やデジタル表示(表面)が点灯しない。	①ブレーカーがOFFになっていませんか? ②電源プラグがコンセントに差し込まれていますか? ③電圧は正常ですか?	①ブレーカーをONにしてください。 ②プラグを確実に差し込んでください。 ③電圧を誤るとコントローラーが破壊され、一切表示なくなります。 →サービスセンターへご相談ください。
湯の出方が悪い。	①止水栓は全開になっていますか? ②給湯口にスケールが付着していませんか? ③オーバーフロー管は正しく配管されていますか? ④オーバーフロー管の先端は開放になっていますか?	①全開にしないと十分な流量は得られません。 ②スケールをナイロンたわしなどで除去してください。 ③オーバーフロー管はフレキ管で排水してください。 ④トラップや電磁弁が設置されている場合は取りはずしてください。
給水時、湯沸器本体及び配管に振動音がある。	給水管に長いフレキ管を使用しているか配管支持が正しくされていますか?	配管を固定していないと「ウォーターハンマー現象」が起き、振動音が出ることがありますので固定してください。
湯が臭い。 湯が汚れている。	新設後で槽内に配管時の油や接着剤が残っていませんか?	新設時は配管工事の際の油などが流入することがありますので、給湯ボタンを押し続け、湯槽内の湯を数回入れ替えてください。
漏水している。	①オーバーフロー管からですか? ②配管接続部からですか? ③アクリル扉下部からですか?	①上表「デジタル表示・ランプ表示」のE4をご参照ください。 ②締め直してください。 ③排水トレイを正しく設置してください。

4 定期点検内容

- 定期点検は毎年行う浄水器交換と、2年に1回を目安に定期的に行う点検です。
- 定期点検では、下欄のNo.1～No.4に従って各部の状態を確認してください。
- 下記項目で不具合を発見した場合は直ちに**使用中止・修理**してください。

No.	定期点検項目	1年毎 浄水器交換	2年毎 浄水器交換+温水器点検
	1) 作業場所の養生	○	○
	2) 手指、清掃用具の洗浄・消毒	○	○
1.	消耗部品交換(浄水器フィルター交換サービスプログラムを含む)		
	1) 浄水器フィルター交換	○	○
	① 交換前不具合(異物・異臭・水圧)	○	○
	② フィルターのLOT No.交換前() 交換後()	○	○
	③ 交換前浄水器のお客様確認	○	○
	④ 交換後浄水器のお客様確認	○	○
	2) 残留塩素測定		
	① 原水残留塩素濃度(□水道水 □簡易水道 □井水 □その他)	○	○
	② 浄水残留塩素濃度	○	○
	③ 浄水確認(味・異物)	○	○
	3) オーバーフローパイプのOリング交換		○
	4) 中蓋のシリコンチューブ交換		○
	5) 給水管のパッキン交換		○
	6) 配水管のパッキン交換		○
	7) 給湯口カバー(給湯口スケール対策)交換		○
2.	電装・配管点検		
	1) ヒーターの劣化調査		
	① 絶縁抵抗測定 2MΩ以上		○
	2) 電装部品の点検		
	① コネクター結線の緩みや抜け無の確認		○
	② パワーリレーの配線接続部の増締め、締付け確認		○
	③ アース線結線接続部の増締め、締付け確認		○
	④ コード及び接続部の点検		○
	3) 配管、漏水点検		
	① 配管増し締め、水漏れチェック(通水時、止水時確認)		○
	② 温水器本体の水漏れチェック(給水、排水、管継手部)		○
	③ 間接排水(配管方法確認、排水口のエッジなきこと確認)		○
	4) 動作確認		
	① 給水バルブ		○
	② 給湯バルブ		○
	③ 水位センサー		○
	④ 正面デジタル表示、背面操作パネルの表示確認		○
	5) 電気測定		
	① 定格電圧測定 100V±10%		○
	② 運転電流測定 定格15A±10%		○
	6) 設置安全性確認		
	① 温水器の転倒防止策(設置台への固定)		○
	② 設置台の転倒防止策(床、壁、隣接什器等への固定)		○
3.	湯槽内清掃、消毒		
	1) シンク吐水管清掃消毒		
	① 吐水管内部ブラッシング、整流板洗浄(アルコール消毒)	○	○
	② フラッシング洗浄(水道水通水)	○	○
	2) 温水器湯槽内の清掃(スケール除去)		○
	3) ヒーターの清掃(スケール除去)		○
	4) 水位センサーの清掃(スケール除去)		○
	5) 温度センサーの清掃(スケール除去)		○
	6) 温水器給湯口清掃(スケール除去)		○
	7) トレイの清掃(スケール除去)		○
4.	清掃と日常点検項目の実施		
	1) 本体カバー、アクリルカバーの清掃		○
	2) 日常点検項目		
	① 排水トレイ、水切りが正しく設置されていること		○
	② 出湯ボタン動作がスムーズで、確実に出湯すること		○
	③ 使用前捨て水200CC以上		○
	④ 外観清掃(扉、本体、キャビネット拭き掃除)		○
	⑤ 浄水器表面の拭き清掃		○
	⑥ 温水器本体、各配管接続部に漏水がないこと		○
	⑦ コード及び接続部の点検		○
	⑧ ねじ類の潰れ、ねじの変形がないこと		○
	⑨ 扉類、カバー類、丁番(各ねじのゆるみやぐらつきがないこと)		○
	⑩ 扉類の動作がスムーズで、ロックが確実であること		○
	⑪ 本体(特に上部)にぐらつきがないこと		○
	⑫ ステッカー類のはがれがないこと		○

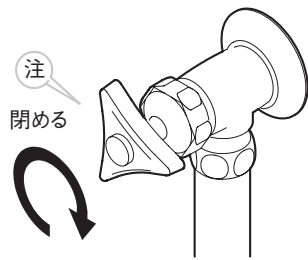
5 定期点検手順

(1) カギの準備、作業場所の養生

- キャビネットのカギを管理者から受け取り、作業場所を養生してください。

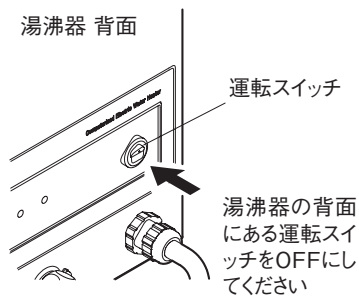
(2) 給水管の止水栓を閉め、湯沸器背面の運転スイッチ(赤色)をOFFとし、電源プラグを抜いてください。

【止水栓を閉める】

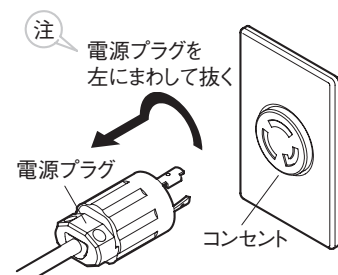


注：完全に閉めます。

【運転スイッチをOFF】



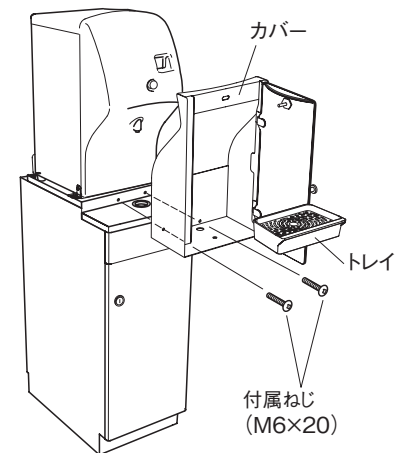
【電源プラグを抜く】



注：絶対に濡れた手で触らない。

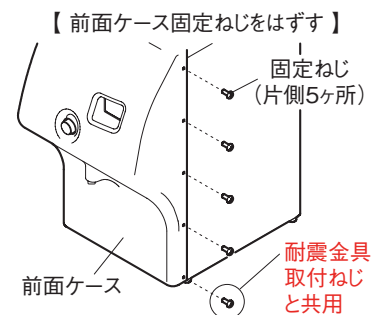
(3) アクリル扉付カバーと前面排水トレイを取り外してください。

- 取り外した部品は破損防止のため落下する恐れのない場所へ保管してください。



(4) 前面ケースを固定しているねじを左右5ヶ所ずつ、計10ヶ所を取り外します。

- 取り外したねじは紛失しないよう保管してください。



注：固定ねじをなくさないでください。

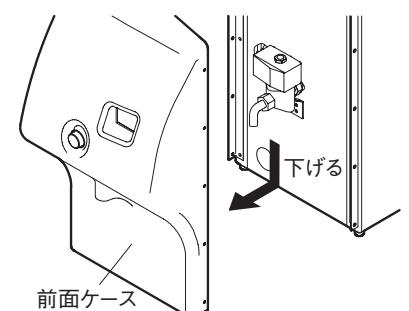
(5) 前面ケースを取り外します。

- ① 注湯口が見えなくなる程度に前面ケースのみを押し下げます。(約10mm程度)
- ② 前面ケースを手前方向に引き出します。(※注1を参照)
- ③ 注湯口押しボタンスイッチの接点部リリースアーム(白色)を押しながら押しボタン部を外してください。
- ④ LED温度表示部に繋がっている配線は繋がったままとしておいてください。

【注意】

- 前面ケースと湯槽は“LED表示部の配線”と“運転スイッチの配線”が繋がっています。
- 強く引っ張り過ぎないように前面ケースを引き出してください。

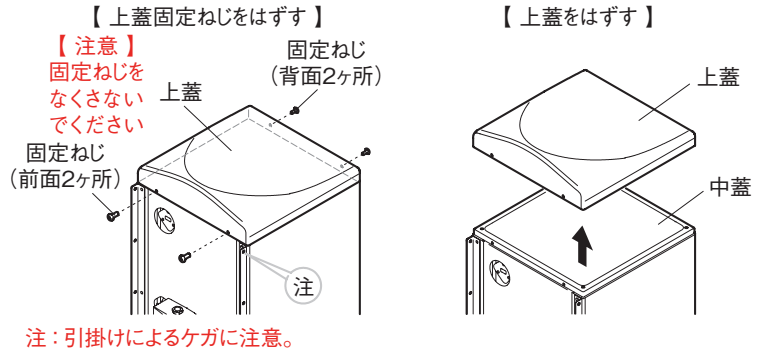
【前面ケースを取りはずす】



注1：前面パネルを強引に引っ張らないでください。
注2：電気部品に水をかけないでください。

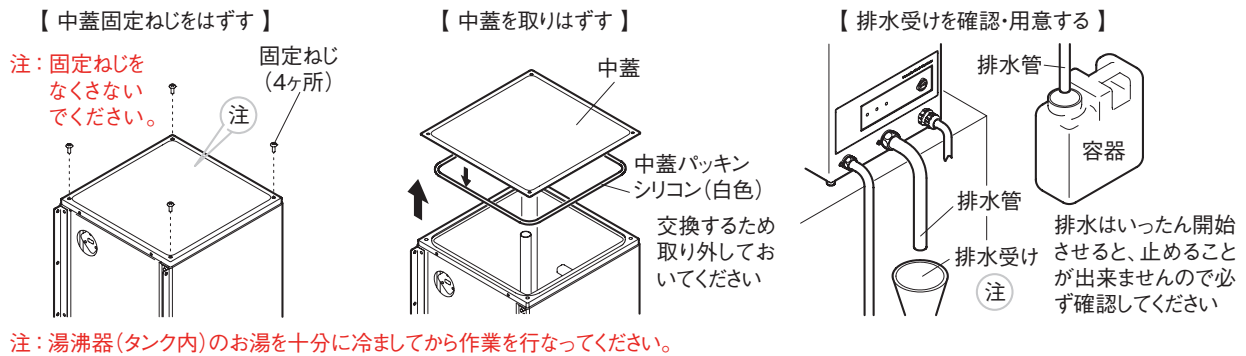
(6) 上蓋を取り外します。

- 上蓋を固定しているねじ(前後2ヶ所ずつ)を取り外し、上に引き上げて外します。
- 取り外したねじを紛失しないよう保管してください。



(7) 中蓋を取り外します。

- 中蓋を固定しているねじ(4ヶ所)を取り外し、上に引き上げて外します。(※注意を参照)
- 中蓋についているシリコンゴムチューブは消耗部品ですので新品に交換してください。

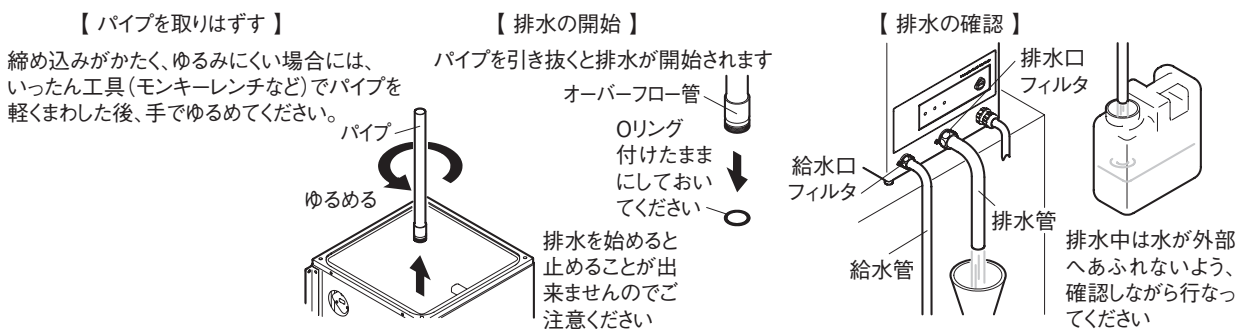


【注意】

- 中蓋は熱くなっていますので取り外しには注意してください。
- 湯槽内には高温のお湯が貯まっています。
- 湯槽内からは湯気が出ますので注意してください(中蓋を少しずらして湯気を逃がしてから取り外すこと)。

(8) 湯槽内の湯を排出させます。

- ① 湯沸器に接続されているオーバーフロー管からは湯槽内より14Lの湯が排出されます。適当な容器等で受けるなどの措置を講じてください。(※注意を参照)
- ② 湯槽内の湯は高温です。設備側の配管保護のため水で温度を下げながら排出させます。
- ③ ウォーターポンププライヤーでオーバーフロー管の上ふちを持ち、反時計回りに回してください。
- ④ 湯槽内オーバーフロー管を完全に取り外してください。湯が排出されます。
- ⑤ 湯の排出が完全に終了した後に設備側給水管・排水管(フレキ管など)を取り外し、耐震金具や専用台から本体を取りはずしてください。
- ⑥ 湯沸器給水口・排水口内のフィルタ(アミ)は清掃してください。
- ⑦ 湯槽内オーバーフロー管についているOリングは付けたままにしておいてください。

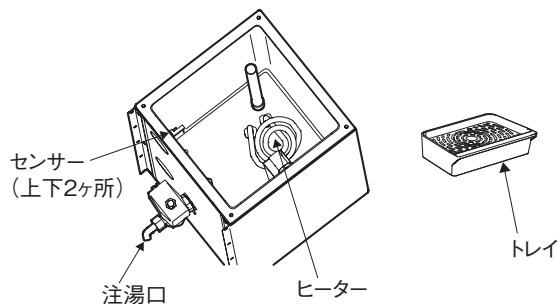


【注意】

- 排水は一旦開始させると止めることができませんので、容器に確実に排水されることを確認してください。
- 湯気で火災報知器等が作動しないような状態とし排水を行ってください。
- 設備側の排水管(フレキ管など)は排水中は高温となりますのでご注意ください。

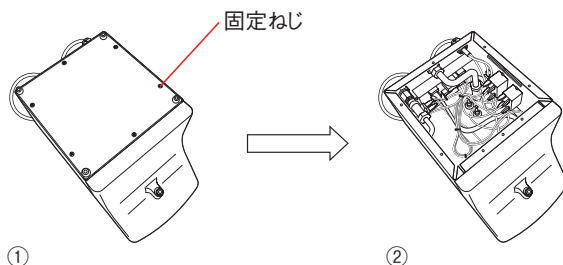
(9) ナイロンたわしで清掃を行います。

- ① 湯槽内の清掃を行ってください。
- ② ヒーターの清掃を行ってください。
- ③ 電極(上側)とセンサー(下側)の清掃を行ってください。
- ④ 注湯口の清掃を行ってください。
- ⑤ トレイの清掃を行ってください。
- ⑥ 清掃後は水ですすぎ、清浄していることを確認してください。

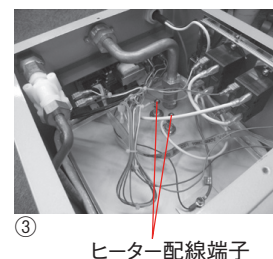


(10) ヒーターの絶縁抵抗を測定します。

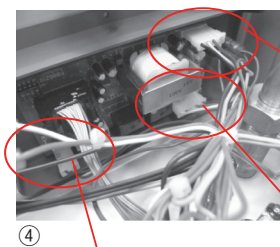
- ① 湯槽を裏返し、湯沸器底板を取り外します。
(※次ページ注意を参照)
- ② 底板の計6ヶ所のねじ(ゴム足部以外)を取り外してください。



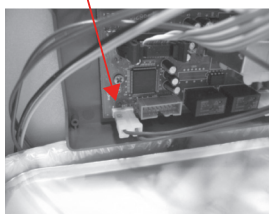
- ③ ヒーター配線を取り外します。(※次ページ注意を参照)



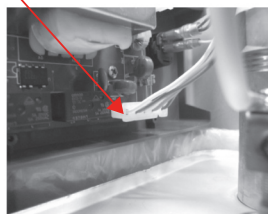
- ④ 基板から2線(灰色配線)・4線(緑青水黒色配線)・5線(白紫黄赤茶)の3種類のコネクタを外してください。



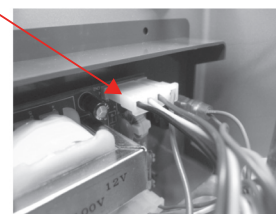
④



2線(灰色配線)



5線(白紫黄赤茶配線)



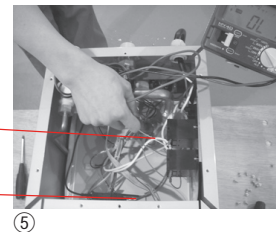
4線(緑青水黒配線)

⑤ 500Vメガテスターを使用し、ヒーター端子部と湯沸器アース部の絶縁抵抗を測定してください。

絶縁抵抗測定値は2MΩ以上であることを確認してください。

ヒーター配線端子

湯沸器アース



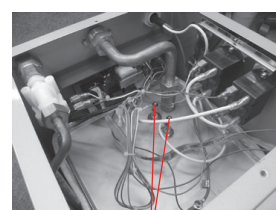
⑤

⑥ 絶縁抵抗測定終了後は基板に接続されていた④の3種類のコネクタを元に戻してください。



⑥

⑦ ヒーター配線を戻します。ヒーター配線には1.6N・mトルクドライバーを使用してください。(※注意を参照)



⑦

ヒーター配線端子

⑧ 電源コンセントにて電圧測定を行ってください。

【注意】

- 湯槽を裏返しにする時は、注湯口・電磁弁を持たないでください。
- ヒーター端子部が変形しないようにラジオペンチ等で押さえながらビスの取り外し、取り付けを行ってください。



[参考資料]

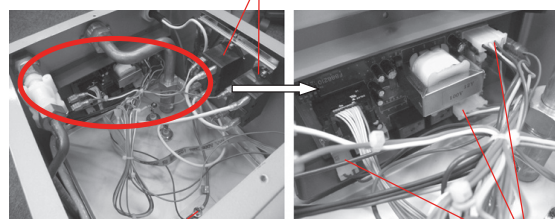
電装接続部の締め付けトルク一覧表

ねじの種類	トルク(N・m)
M3	0.63
M4	1.50
M5	3.00
M6	5.20
M8	12.50

(11) 電装部品の点検を行います。

- ① 各コネクタを軽く引っ張り、緩みや抜けの無いことを確認してください。
- ② パワーリレーのファストン端子を軽く引っ張るなどして、緩みや抜けの無いことを確認してください。
- ③ 電源アースと缶体アースはそれぞれ確実に順番に締め込まれていることを確認してください。
- ④ 電源コードを含めた配線全般にキズ、変色等が無いことを確認してください。
- ⑤ 湯槽底板は漏水点検終了まで開けたままとしてください。

パワーリレー

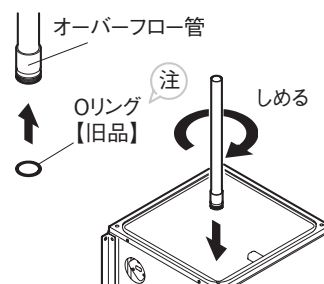


電源・缶体アース

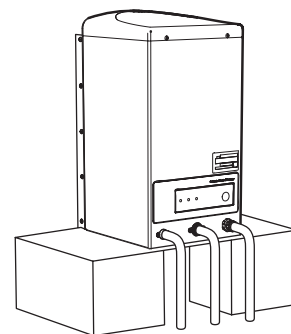
コネクタ

(12) 湯槽への水張りを行います。

- ① 湯槽の下に足げたなどを敷き、その上に湯沸器を置いてください。
(※電装部に手が入る程度のスペース)
- ② 湯槽内のオーバーフロー管を時計回りにネジ込んでください。
(※Oリングは古いものを使ってください)



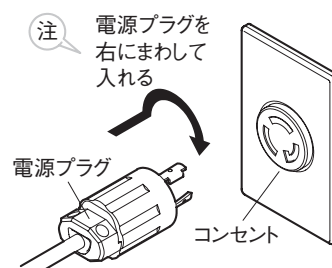
- ③ 湯沸器に接続されていた排水管和給水管を仮復旧させてください。



- ④ 給水管の止水栓(設備側)を開けてください。

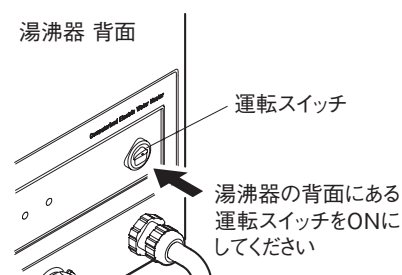


- ⑤ 電源プラグを電源コンセントに差し込んでください。

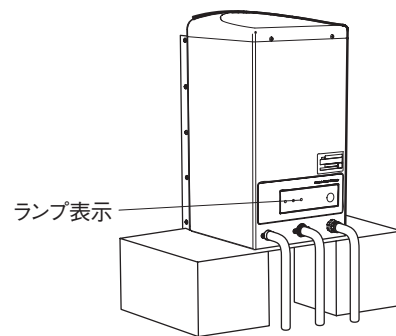


注：絶対に濡れた手で触らない。

- ⑥ 運転スイッチ(赤色)をONにしてください。
湯沸器への給水が開始されます。



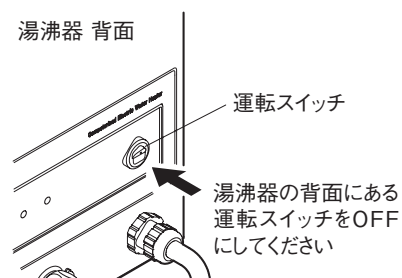
- ⑦最初に給水異常AL2が報知され、センサー位置で給水異常が解除されることを確認してください。(PP→LO表示)



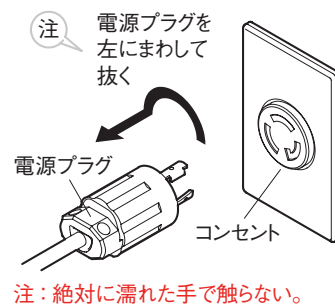
- ⑧給水管の止水栓(設備側)を閉めてください。



- ⑨運転スイッチ(赤色)をOFFにしてください。



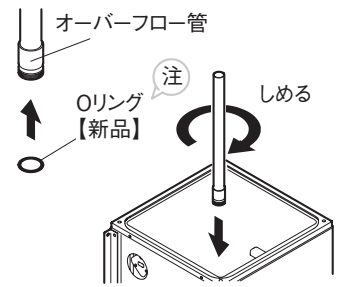
- ⑩電源プラグを電源コンセントから抜いてください。



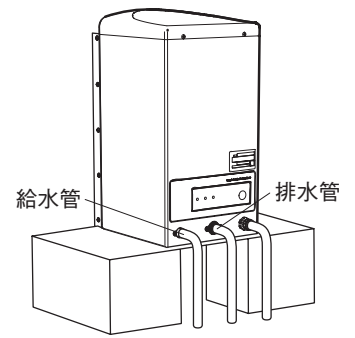
(13)漏水点検を行います。

- ①給水電磁弁など湯沸器給水経路の漏水有無を目視や触るなどして確認してください。(※注意を参照)
- ②排水中継管など湯沸器排水経路の漏水有無を目視や触るなどして確認してください。

- ③湯槽内底部からヒーター取り付け部の漏水有無を目視や触るなどして確認してください。
- ④電磁弁接続部や注ぎ口管接続部の漏水有無を目視や触るなどして確認してください。
- ⑤その他各溶接部の漏水有無を目視や触るなどして確認してください。
- ⑥漏水が無いことを確認した後に、前項7の手順を参考に湯槽内の水を排出させてください。
- ⑦湯槽内の水を排出した後にOリングを新品に交換したオーバーフロー管を再度取り付けてください。
- ⑧湯沸器に仮接続されている給水管と排水管を取り外してください。
- ⑨湯沸器底板を取り付けてください。



注：Oリングは必ず新品に交換。

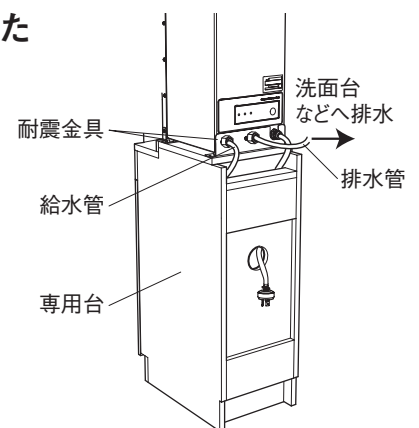


【注意】

- 漏水点検時は必ず電源プラグを電源コンセントから抜いてください。
- 漏水点検時は電装部配線を引っ掛けたりせず、注意しながら行ってください。

(13) 温水器を耐震金具のついた専用台に戻し、湯沸器に接続されていた給水管と排水管を復旧してください。

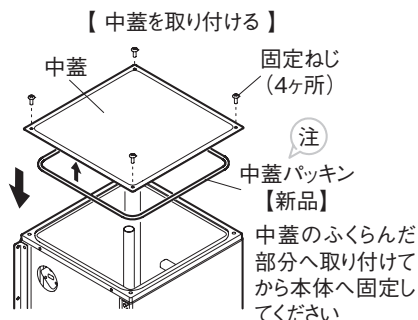
- 温水器を耐震金具のついた専用台に戻し、給水管、排水管ともパッキン類は交換してください。



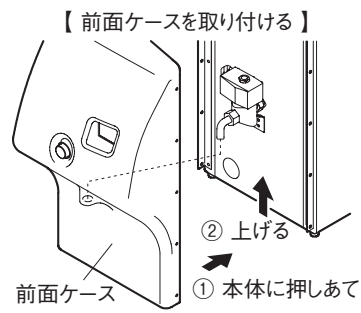
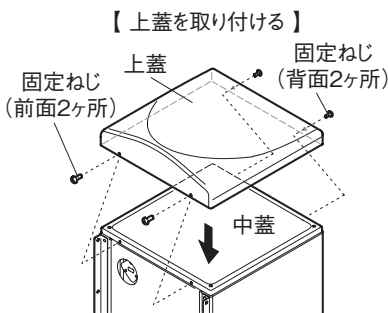
※電源コードはベニヤ板を穴または取り外して通してあります。

(14) 試運転を行ってください。

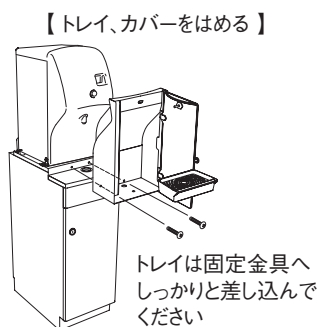
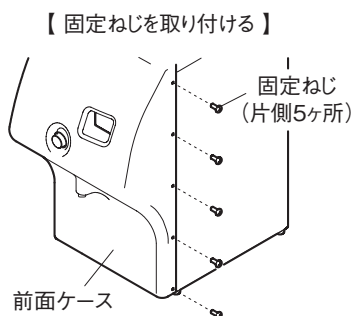
① 中蓋、上蓋、前面ケース、トレイ、カバーを復旧させてください。



注：パッキンは必ず新品に交換。



注：電気部品に水をかけない。



② 給水バルブを開けてください。

【止水栓を開ける】

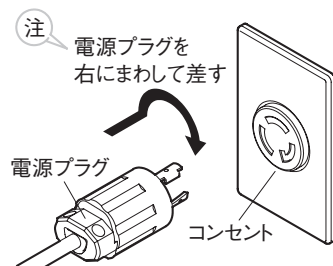


注：完全に開けます。

③ 電源コンセントで電圧測定を行ってください。定格電圧100V±10%以内であることを確認してください。

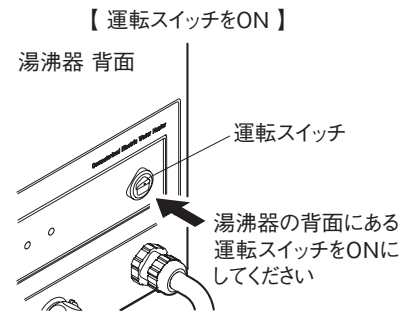
④ 電源コンセントに運転電流測定用プラグを差し込んでから電源プラグへ差し込んでください。

【電源プラグを差す】



注：絶対に濡れた手で触らない。

⑤ 運転スイッチをONにしてください。



⑥ 給水が下側センサー位置で止まったら運転スイッチをOFFにしてください。

⑦ 設備側オーバーフロー管から漏れ等が無いことを確認してください。

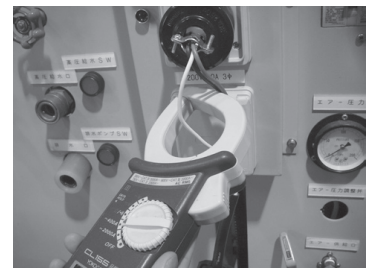
⑧ 漏れが無いことを確認できたら、再度運転スイッチをONさせてください。

⑨ 試運転として設定温度で止まること、作動に問題が無いことを確認してください。

⑩ 給湯ボタンを押してお湯が出るのを確認してください。

⑪ 運転電流測定用プラグ部分で運転電流を測定してください。
定格電流15A±10%以内であることを確認してください。

【 運転電流を測定する例 】





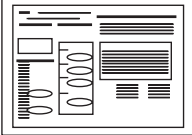



⑫ 試運転終了後は運転プラグを元に戻してください。

以上でF11/F12の保守点検作業は完了です。

6 浄水器 WP-M31 フィルターカートリッジ交換手順書

当手順書は、『コンビ 浄水器WP-M31』専用です。製品の機能が十分発揮されますようこの説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。

浄水器カートリッジの交換は、必ず下記の手順にしたがってください。手順、接続を間違えますと、水漏れ、故障の原因となります。

梱包内容		準備するもの	
浄水器フィルター (1個)   保護フィルムは、取付直前までつけておくこと。	当説明書 (1部) 	受け水用の容器 またはポリ袋や 養生シート等 (適宜) 	
交換記録ステッカー (1部) 	使用済フィルター用ポリ袋 (1袋) 	水栓金具用レンチ (適宜)	

安全上の注意

注意

- 交換の前に手指をよく洗って清潔にしてください。
 - 交換用カートリッジは、浄水器本体にセットするまで開封しないでください。先に開封すると汚れや雑菌がつく可能性があります。
 - 専用の浄水器カートリッジ以外は取り付けしないでください。漏水や故障の原因になります。
 - 交換時は、浄水器内の滞留水を床や仕器内にこぼさないよう受け水用の容器またはポリ袋や養生シート等を敷いて作業をおこなってください。
 - フィルターを交換したときは、下記のように捨て水をしてください。行わないと、雑菌や異臭が発生し、飲用に適さない水が流出する可能性があります。捨て水後は、透明な容器に水をくみ取り「にごり、浮遊物、異臭」など、異常のないことを確認してから使用してください。
- 《浄水器・温水器付きシンクシリーズの場合》
 使い始めに5分間以上。その後も毎朝の使いはじめに、10リットル以上、または3分間以上の捨て水をしてください。
- 《調乳用温水器F1シリーズの場合》
 使い始めに5分間以上。その後も毎朝の使いはじめに、200cc以上の捨て水をしてください。

お手入れと点検の方法


- カートリッジを交換後2～3日間は、浄水後の湯水が微細な気泡により、白くにごることがあります。これは中空糸膜フィルターが水になじむ過程で発生するもので1～2分間置くと気泡は消え透明になります。したがって、この状態でも飲料水として問題はありません。
- 同梱の交換記録ステッカーに交換日を記入し、浄水器本体などわかりやすい位置に貼付てご利用ください。次回のフィルター交換時期の目安となります。
- フィルターの寿命は約1年間が目安です。1年以内には必ず新しいフィルターに交換してください。ただし、赤サビ水などの影響で目づまりし、蛇口からの水が極端に細くなったときなどの場合は1年経過しなくても交換してください。
- 月に1度は給湯口、蛇口先端部(アミ、キャップ等がある場合にはそれらも含む)を掃除してください。
- 月に1度は浄水器の配管接続部から水漏れがないか点検してください。
- 取付先機器本体の取扱説明書に従い、正しくお使いください。
- 使用済のフィルターは、自治体等のルールに基づき処分してください。

交換方法

1 止水栓を閉めます(配管に対しツマミを垂直に)。給水側にさらに止水栓がある場合は、それも閉めます。



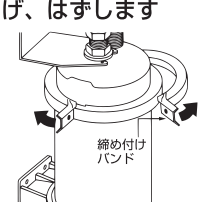
2 ●当社浄水器温水器シンク製品の場合
混合栓のレバーを操作して『開』(水が出る方向)にします。このとき水が出なくなったことを確認してください。
●当社調乳用温水器F11/F12の場合
温水器の電源スイッチをOFFにしてください。



3 チョウネジをゆるめます

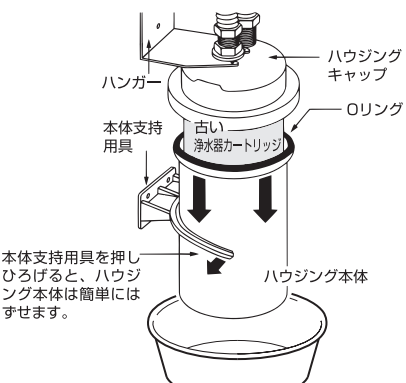


4 締め付けバンドを押しひろげ、はずします



5 浄水器のハウジング本体を取り外します。

- ハウジング本体をハウジングキャップから引き抜きます。Oリングもはずします。(この時、ハウジングキャップはハンガーに固定されたままです。)
- 交換時は、浄水器内の滞留水を床や仕器内にこぼさないよう受け水用の容器またはポリ袋や養生シート等を敷いて作業をおこなってください。



注意

浄水器カートリッジ交換作業のとき、新しい浄水器カートリッジ、特に出口側ネジ部を汚れた手などで触らないでください。

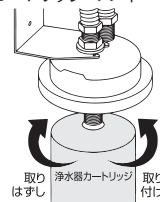
《ヘッドと胴がはずれにくい場合》
OUT側の先の止水栓との間で真空状態になって外れにくい場合がありますので、その場合は下記のようにしてください。

※浄水器・温水器付きシンクの場合
混合栓のレバーが『開』(水が出る方向)になっているかご確認ください。

※F11/F12の場合
浄水器上部のOUT側のフレキ管を先に外してください。

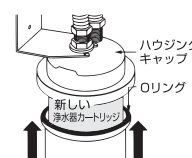
6 新しい浄水器カートリッジに交換します

- ①古い浄水器カートリッジを時計まわり(右方向)にまわして取りはずします。付属のポリ袋に収納し自治体の指針に従い処分してください。
- ②新しい浄水器カートリッジのフィルムを剥がし、逆まわり(左方向)にハウジングキャップに取り付けます。

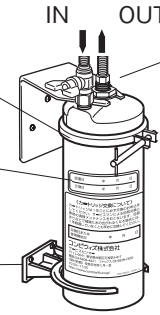


7 ハウジング本体を取り付けます

- ①ハウジング本体にOリングをセットし、ハウジングキャップに差し込みます。
- ②締め付けバンドを取り付け、チョウネジをしっかりと締めてください。



8 交換取付完成図



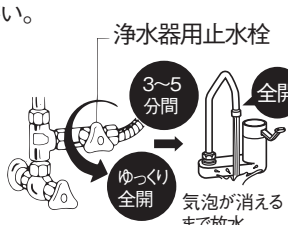
- チョウネジ (向きは開梱時と異なる場合があります)
- 交換記録ステッカー (付属) (交換日を記録し見やすい位置に貼ってください)
- 本体支持具

●IN、OUTを間違えていないか、よく確認して下さい。
●締め付けバンド部から水漏れがないかを確認してください。水漏れがする場合は、Oリングのずれを点検してチョウネジをしっかりと締めてください。

9 3~5分間放水と水漏れチェックをしてください。

- ①浄水器専用給水栓の浄水レバーを「全開」にしてください。
- ②浄水器止水栓をゆっくり開きながら「全開」にしてください。浄水器の空気を抜き、また充填物(活性炭など)を水洗するために、約3~5分間放水してください。
- ③浄水器専用止水栓を閉め、浄水器および配管各部より水漏れがないか確認してください。

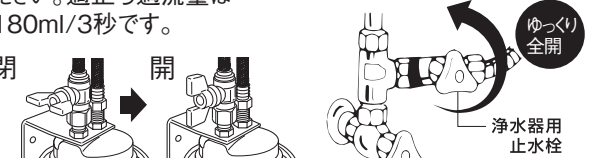
☆当社調乳用温水器F12の場合
本体側の後ろから一旦給水管をはずし①②を行ってください。この時捨て水は手洗いなどに流すか、バケツ等にとって排水してください。排水後は給水栓を元に戻してください。



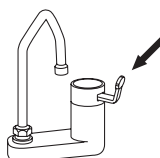
※図は当社浄水器温水器シンク製品を使った場合のイラストを使用しています。

10 止水栓を開けます。

給水側にさらに止水栓がある場合は、それも開けます。開ける動作はゆっくりと行います。最後にろ過流量の調整を行ってください。適正ろ過流量は180ml/3秒です。



11 混合栓のレバーを操作し、正しく動作するか確認してください。最後に水を止めて、浄水器やその他の配管に水漏れがないか確認の上、左記注意事項どおり捨て水をしてください。



7 調乳用温水器F1シリーズメンテナンスチェックシート

年 月 日

お客様名	点検実施会社	作業者	台数

調乳用温水器 製造番号

No.	定期点検項目	1年毎	2年毎	確認結果	備考
		浄水器交換	浄水器交換+温水器点検		
0.	準備				
	1)作業場所の養生	○	○	済・未	
	2)手指、清掃用具の洗浄・消毒	○	○	済・未	
1.	消耗部品交換(浄水器フィルター交換サービスプログラムを含む)				
	1)浄水器フィルター交換	○	○	済・未	
	①交換前不具合(異物・異臭・水圧)	○	○	済・未	
	②フィルターのLOT No.交換前() 交換後()	○	○	左欄記入	
	③交換前浄水器のお客様確認	○	○	済・未	
	④交換後浄水器のお客様確認	○	○	済・未	
	2)残留塩素測定				
	①原水残留塩素濃度(□水道水 □簡易水道 □井水 □その他)	○	○	約 mg/L	
	②浄水残留塩素濃度	○	○	約 mg/L	
	③浄水確認(味・異物)	○	○	良・否	
	3)オーバーフローパイプのOリング交換		○	済・未	
	4)中蓋のシリコンチューブ交換		○	済・未	
	5)給水管のパッキン交換		○	済・未	
	6)配水管のパッキン交換		○	済・未	
	7)給湯口カバー(給湯口スケール対策)交換		○	済・未	
2.	電装・配管点検				
	1)ヒーターの劣化調査				
	①絶縁抵抗測定 2MΩ以上		○	MQ	
	2)電装部品の点検				
	①コネクター結線の緩みや抜け無の確認		○	良・否	
	②パワーリレーの配線接続部の増締め、締付け確認		○	良・否	
	③アース線結線接続部の増締め、締付け確認		○	良・否	
	④コード及び接続部の点検		○	良・否	
	3)配管、漏水点検				
	①配管増し締め、水漏れチェック(通水時、止水時確認)		○	良・否	
	②温水器本体の水漏れチェック(給水、排水、管継手部)		○	良・否	
	③間接排水(配管方法確認、排水口のエッジなきこと確認)		○	良・否	
	4)動作確認				
	①給水バルブ		○	良・否	
	②給湯バルブ		○	良・否	
	③水位センサー		○	良・否	
	④正面デジタル表示、背面操作パネルの表示確認		○	良・否	
	5)電気測定				
	①定格電圧測定 100V±10%		○	V	
	②運転電流測定 定格15A±10%		○	A	
	6)設置安全性確認				
	①温水器の転倒防止策(設置台への固定)		○	良・否	
	②設置台の転倒防止策(床、壁、隣接什器等への固定)		○	良・否	
3.	湯槽内清掃、消毒				
	1)シンク吐水管清掃消毒				
	①吐水管内部ブラッシング、整流板洗浄(アルコール消毒)	○	○	済・未	
	②ブラッシング洗浄(水道水通水)	○	○	済・未	
	2)温水器湯槽内の清掃(スケール除去)		○	済・未	
	3)ヒーターの清掃(スケール除去)		○	済・未	
	4)水位センサーの清掃(スケール除去)		○	済・未	
	5)温度センサーの清掃(スケール除去)		○	済・未	
	6)温水器給湯口清掃(スケール除去)		○	済・未	
	7)トレイの清掃(スケール除去)		○	済・未	
4.	清掃と日常点検項目の実施				
	1)本体カバー、アクリルカバーの清掃		○	済・未	
	2)日常点検項目				
	①排水トレイ、水切りが正しく設置されていること		○	済・未	
	②出湯ボタン動作がスムーズで、確実に出湯すること		○	済・未	
	③使用前捨て水200CC以上		○	済・未	
	④外観清掃(扉、本体、キャビネット拭き掃除)		○	済・未	
	⑤浄水器表面の拭き清掃		○	済・未	
	⑥温水器本体、各配管接続部に漏水がないこと		○	済・未	
	⑦コード及び接続部の点検		○	済・未	
	⑧ねじ類の潰れ、ねじの変形などがないこと		○	済・未	
	⑨扉類、カバー類、丁番(各ねじのゆるみやぐらつきがないこと)		○	済・未	
	⑩扉類の動作がスムーズで、ロックが確実であること		○	済・未	
	⑪本体(特に上部)にぐらつきがないこと		○	済・未	
	⑫ステッカー類のはがれがないこと		○	済・未	
5.	撤去				
	①キャビネット(内部、扉等)、周辺床作業養生跡の撤去	○	○	済・未	

コンビウィズ使用欄

日付	担当者名
月 日	

8 その他

(1) 点検日の記入

点検チェックAシール(別売)に点検日を記入ください。記入欄がない場合は、新しいものを用意の上、製品に貼り付けてください。

●点検チェックシールA
サンプル

製品を安全にご使用いただくために日常点検と1年ごとの定期点検をお願いします。			
点検年月日	点検者	点検年月日	点検者
年 月 日		年 月 日	
年 月 日		年 月 日	
年 月 日		年 月 日	
年 月 日		年 月 日	

販売元 コンビウズ株式会社 (受付時間) 祝祭日を除く月～金
サービスセンター 10:00～17:00
TEL:03-5806-4621 338456080 0607(1)

サイズ:W80×H55mm
部品コード
338456090
交換ステッカー(1年用銀)

(3) 点検記録の記入

点検結果を「点検記録」に記入し、弊社サービスセンター宛てにFAXを送信してください。

(4) 清掃

清掃の際は中性洗剤を薄めたもので水拭きし、後で必ず乾拭きしてください。

【注意】 中性洗剤以外の洗剤を使用することはおやめください。

(プラスチックが劣化し、退色、ヒビ割れが発生し破損することがあります。)

Combi
www.combiwith.co.jp

コンビウィズ株式会社

本社/東京営業所/〒111-0041 東京都台東区元浅草2-6-7

TEL.03-5828-7631 FAX.03-5828-7630

大阪営業所/〒540-0026 大阪市中央区内本町2-4-16

TEL.06-6942-0384 FAX.06-6942-0398

●修理・点検に関するお問合せ

サービスセンター/TEL.03-5806-4621

受付時間:祝祭日を除く、月～金10:00～17:00

119166010 0910(2)